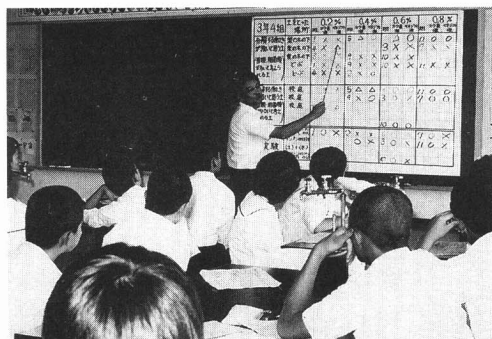


(2) 指導後の反省

- ① 生徒はフィルムケースを活用した実験に、大いに興味・関心を示した。しかも、グループ内で個別に分担した実験法を取り入れたので、時間をもてあます生徒もなく自主的に真剣な態度で取り組んだ。
- ② 実験器具はフィルムケースに穴をあけるだけで簡単に作れ、多量に使える点でも便利である。
- ③ 腐葉土に水を入れて、ろ過する場合、教科書ではガーゼを用いているが、土がまざっているとすぐに、にごってしまい検出に不便である。その点、この実験法のように、クッキングペーパーで行うと、にごりも少なく、簡単に検出でき、色の確認ができる。手もよごさず行えるので便利である。
- ④ この実験法は、操作も簡単で、個別化も容易にはかれ、生徒一人一人の学習意欲を高めるのによい方法である。
- ⑤ この実験から、土の中の分解者によって有機物が分解されることは、十分に理解されたが、その後、無機物になることの理解が不十分である。今後、無機物の確認方法も検討していきたい。



(微生物を含む土の採集の様子)



(班ごとに書き込んだ実験結果のまとめ)